

2020 年の国際石炭情勢の展望と課題

< 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット
研究理事 佐川 篤男

2020 年の石炭価格と国際石炭需給

1. 2020 年の一般炭スポット価格（豪州ニューキャッスル港出し FOB 価格）は、70 ドル/トン（以下ドルと表記）を軸に季節要因により 5～10 ドル変動すると予測する。
2. 2020 年の原料炭スポット価格（豪州高品位強粘結炭 FOB 価格）は、140～150 ドル/台で推移すると予測する。
3. なお、2020 年度の日本の一般炭 CIF 平均価格は 87 ドル、原料炭 CIF 平均価格（強粘結炭、非微粘結炭、PCI 炭の平均）は 115 ドルと想定する。
4. 一般炭の輸入需要は、2020 年に入っても増加すると見込まれる。インドでは消費の拡大に伴い輸入量は増加し、アセアンではベトナム、マレーシア、フィリピンで増加が見込まれる。中国では国際価格が国内炭価格に比して割安なことから輸入量が大きく減少することはないと見込まれる。欧州では引き続き輸入量は減少する。
5. 供給側では、豪州、ロシアに加え、2019 年に輸出量が減少しているコロンビアも供給力に余力がある。インドネシアは政策的に生産にキャップをかけるとしているが、現段階においてはその具体的な数値が示されておらず、2020 年に大きく生産量を減じることはないと考えられる。総じて供給力は確保されると判断され、一般炭需給は安定した状況が続く。
6. 原料炭の輸入需要は、鉄鋼需要により左右されるが、インドでは景気回復により銑鉄生産が増加し、原料炭輸入量は増加が見込まれる。2019 年に輸入量が減少した日本でも増加が見込める。中国では、一般炭と同様に、国際価格が国内炭価格に比して割安なことから、輸入量が大きく減少することはないと見込まれる。
7. 供給側では、豪州、ロシア等で供給力に余裕があると思われる。需要に応じた供給体制を維持することで、原料炭需給は安定した状況が続く。

石炭価格動向

8. 2019年、石炭価格は一般炭、原料炭ともに下落した。
9. 一般炭スポット価格は、2018年7月の123ドル/トン进行ピークに下落に転じ、2019年に入って、年初の100ドルから8月には62ドルまで下落した。その後、一般炭スポット価格は緩やかに上昇しており、足元67ドル前後で推移している。
10. 原料炭スポット価格は、2019年に入り200ドルから210ドルの間で推移したが、6月以降下落基調となり、9月下旬には130ドルを下回るまで下落した。その後、150ドルまで一時的に戻したが、足元135ドル強で推移している。
11. この価格の下落は、一般炭、原料炭ともに、輸入量の伸びが鈍化した一方で、供給が順調であったことに起因する。

主要国の一般炭需給動向

12. 中国では、2019年2月に豪州炭の輸入規制を強化し、2、3月の輸入量が一時的に減少した。その後は国際価格が国内炭価格より安価であることから輸入量は対前年同期比で増加しているが、2019年1-10月の輸入量の対前年比増加率は+5.2%と、2018年1-10月の対前年比増加率+15.5%を大きく下回っている。
13. なお、中国煤炭協会によれば、2019年1-10月の国内生産量は30.6億トン（対前年同期比4.5%増）、輸入量は褐炭含め2.8億トン（同9.6%）に達している。一方で消費量の伸びは0.8%と低く、一部地域を除いて石炭需給は飽和状態にあると報じている。また、2019年の石炭輸入量を3億トンに制限するとの報道があり、中国の輸入量は年末に向けて減少する。
14. インドでは、発電向け需要の拡大により石炭消費は拡大し、1-10月の輸入量は対前年同期比で1,800万トン増となっている。
15. 韓国では、2017年に新規石炭火力の運開により輸入量を1,500万トン以上も増加させたが、2019年1-10月で対前年同期比620万トン減少している。日本の輸入も2019年1-10月で同310万トン減少している。
16. これら4カ国（中国、韓国、日本、インド）の1-10月の輸入量は2017年の3.96億トン、2018年の4.31億トン、2019年の4.45億トンと増加量は少なくなっている。
17. 欧州では、脱石炭から輸入量は減少傾向にあるが、これに加えて欧州でのガススポット価格の急落が石炭消費量に負の影響を及ぼしている。
18. 供給側では、インドネシア、豪州が供給力を高めており、2019年に入り輸出量を増加させている。一方で、国際価格の下落によりコスト競争力の低い米国では輸出量を減少させ、欧州市場の縮小によりコロンビアの輸出量も減

少している。

主要国の原料炭需給動向

- 19.原料炭市場も輸入需要が伸び悩む中、供給力が高まり供給過剰気味になっている。主要鉄鋼生産国での2019年の銑鉄生産量は、中国を除いて対前年同月比で増加しておらず、原料炭輸入量もほぼ横ばいとなっている。
- 20.インドでは2017、18年と原料炭輸入を拡大させてきたが、経済成長の減速から2019年の原料炭輸入量は対前年比で伸びていない。
- 21.日本、韓国の輸入量もほぼ横ばいとなっている。
- 22.一方で、中国の輸入量は1-10月で6,680万トンと対前年同期比で990万トンの増加となっている。しかし、そのうちの約6割がモンゴルからの輸入量の増加である。
- 23.供給側では、2019年に入り豪州で増加し、カナダ、ロシアで微増している。一方で、米国では一般炭と同様に輸出量を減少させている。

以上